

猪苗代湖底調査し 生物の変遷把握へ きょうから福島大



調査の内容について説明する長橋教授

福島大などは六日か
ら猪苗代湖の成り立ち
や湖にすむ生物の変遷
を把握するための調査
に乗り出す。五日、福
島市の同大で長橋良隆

共生システム理工学類
教授らが記者会見し、
発表した。調査は同大などが磐
梯朝日国立公園の自然
環境の維持をテーマに

実施している「磐梯朝
日遷移プロジェクト」
の一環。専用船で猪苗
代湖最深部の水深九〇
メートルの湖底をボーリング
し、約三十メートルの厚さの
堆積物を採取する。
湖底の粘土状の堆積
物を解析することで、
湖にすむ生物や水質の
変遷の他、約四万年前
の岩層雪崩で形作られ
たとされる猪苗代湖の
成り立ちについて確認
できるといふ。

長橋教授は「これま
で猪苗代湖の湖底堆積
物を本格的に掘削した
例はない。過去の環境
を知ることで、将来の
環境を守る方策に生か
せるはず」と語った。
同大などは六日、掘
削資材を郡山市の湖南
港に搬入。今月中旬か
ら約一カ月間、湖底を
掘削し堆積物を採取す
る。研究成果は平成二
十六年度末ごろに発表
する予定。